

これからの教育

園長 小林 淳一

「アソカ幼稚園運動会」では、父母会・保護者の皆様に準備から片付け、そして係まで、献身的に働いていただきました。皆様に支えられて、アソカ幼稚園の子供たちにとって、思い出に残る運動会になったと思います。ありがとうございました。また、最後まで声援を送ってくださったご家族の皆様、見守ってくださったご近所の皆様に、感謝申し上げます。

先日、横浜市幼稚園協会の父母セミナーが西公会堂でありました。講師は上智大学教授の奈須 正裕先生でした。奈須先生は、文科省のカリキュラム(教育課程)の作成委員でもあります。非常に参考になる講演でしたので、ご紹介したいと思います。

小学校の学力調査において、算数5年の問題。A問題 知識を問う。平行四辺形の面積を答える問題。子供たちが公式を使って導いて、96%が正解だった。B問題 活用の能力を問う。地図が書いてあってその中にある、平行四辺形的な土地の面積を問う問題。18%しか出来ない。日本の子供たちは、公式は覚えているけど、場面が変わるとそれが使えない。変化・応用に弱い。

これから求める学力は、知識をどれだけ知っているかではなく、自分が知っている知識を組み合わせ(活用して)解決する能力である。

そして、今まで、「学力」と呼ばれなかった、仲間や他の人たちと折り合いをつけて解決していく力。これも学力ととらえる。

学力のとらえ方…潤いのあるもの、知識を獲得しただけで終わらない。知識を使えるようにする。すべての人と協調出来る力。

幼稚園での教育が、まさにこれからの目指す教育だといえます。なぜならば、幼稚園での教育は、IQを向上させるテスト教育、いままでの「認知的教育」ではなく、自制心や粘り強さといった「非認知能力」を育てます。教育学者の実験によると、幼稚園時代は、認知的教育の効果は薄いと結果が出ています。学習意欲、自制心、難題にぶつかった際の粘り強さという非認知能力の部分が伸びるということが分かったそうです。

「手を洗う前に順番を守れなかったあの子が、今日は自分から列に並んでいたんですよ」「いつもはこのくらいでパズルをあきらめていたんですけど、今日は最後までやっていました」「自分でも使いたいおもちゃを、今日は“はいっ”と言って友だちに渡したんですよ」などと、なかなか数値に表すことのできない能力を、子どもたちはこの時期に数多く獲得しています。

この講演を聴き、これからの、日本の教育は、「問題解決力」「自制心」「粘り強さ」「協調性」、そういう「非認知的能力」を育てる教育にシフトしていくということを感じました。